職場からの挑戦

要員問題を訴える

九州地本技術部会

九州地本技術部会は、門司機関区、小倉車両所、福岡総合鉄道部の3職場、66名の部会員で構成をしています。

昨年12月に第26回九州地本技術部会定期委員会を博多発揚ビルで開催し、経過及び1年間の活動方針を決定しました。全国技術部会・菊地事務長は、「基地廃止やタスクフォースの問題」、九州地本・西原委員長からは「たしろ応援プロジェクト、3月ダイヤ改正」についてを中心に挨拶がされました。

最近の検修職場はタスクフォース・効率化が確実に進められており、要員不足、技術継承が問題になっています。こうした現状の中での定期委員会であった為、質疑時間が十分にできずにいる現状があると同時に、新規採用が技術職場にない為に、技術継承や職場がどうなるかといった不安の声が多くあります。

要員問題に立ち向かえるように九州地本3職場が協力する事を確認すると共に、「たしろかおる応援プロジェクトを成功させることを確認して、丸山部会長の団結ガンバローで委員会を終了しました。

新施策の検証課題

全国施設電気部会

全国施設電気部会は、全国の保全職場の職種別部会として、多数の設備の維持管理に日夜奮闘しながら、保全職場で発生する問題の解決に向けて、日々活動しています。

施設電気部会の喫緊の課題として、新施策の検証があります。昨年3月に行われた「機動的設備保守を図る保全体制」の発足から一年が経とうとしています。今回の施策の問題点は大きく分けて①要員不足の問題、②仕切りの問題、③実施して分かった問題、④感情問題の4項目に集約されると考えています。まず、地方部会単位で集約し、支社と協議し、その上で本部・本社協議を行い、問題解決に向けて意思統一を図っていきます。また、嘱託社員や若年社員の退職が止まらず、職場の業務運営に支障が出てきており、地域によっては緊急の課題となっています。1人前になるまで1番時間がかかるのは保全職場という事を会社に訴え、要員計画を明確にさせ、1人でも多くの新規採用者を確保したいと思います。

その他にも、1月1日から線路設備実施基準が改正されました。大きな点は、運転中止値が新設され、保守管理の限度値が明確化しました。しかし、運転中止値の超過を発見したら、整備が終わるまで列車を抑止させるため、他系統にも大きく影響してきます。

そして今年、忘れてならないのは「たしろかおる応援プロジェクト」の完遂です。全国施設電気部会としても、部会組織の強化を目指し「たしろかおる応援プロジェクト」の貫徹に向けて共に闘いましょう。

新春クロスワードパズル 当選者発表!!

答え：コスタリカ

たくさんのご応募ありがとうございます!
厳正な抽選の結果、
右図の方が当選となりました!!

おめでとうございます

Aコース	水上ホテル聚楽ペアーご宿泊招待券	東北地本	山田　尚平　様
Bコース	貨物労組賞	東北地本	内海　秀樹　様
		関西地本	堀内　宗範　様
		東北地本	鈴木　徹　様
	鉄道ファミリー賞	東海地本	中山　武　様
		東海地本	朝倉　由広　様
	全労済賞	関東地本	島田　朋彦　様
		関東地本	小池　慎一　様
		関西地本	田原　洋一　様
		東海地本	成田　康人　様
		北海道地本	笹本　浩之　様
		北海道地本	木村　真綾　様

景品については地本を通じてお送りします。景品の中身は到着をお楽しみに!

安全祈願

2016年1月5日（火）
東京都足立区・西新井大師
（五智山編照院總糸寺）

組合員と家族の安全を祈願しました。
決戦の年を共に
元気よく頑張ろう!

Young Style

その先にあるもの

関西地本青年部　青年部長　**齋藤富巳雄**

前回、ヤングスタイルを書いた時は組織について触れたので、今回は自分が感じている事を書きたいと思います。

現在、貨物労組の全機関、全組織の総力を挙げて「たしろかおる応援プロジェクト」の貫徹に向けて取り組んでいます。関西地本青年部も取り組みを進めていますが、大変厳しい状況です。もちろん青年部員一人ひとりに紹介者カードが行き渡っていますが、たしろを訴える役員の意識にも問題があると感じています。話をすると「たしろが今まで何をしてくれたのか?少しも良くならないではないか!政治活動よりもっと賃金、手当の事をするべき。高い組合費を払っているのに何をやっているんだ!」と厳しい声がとんできます。正直、心が折れそうになることも多々あります。ましてや自分の親や兄弟にも断られた時はどうしようかと思いました。しかし、そこで立ち止まっては何も解決しませんし、私たち青年部の将来が良くなることはありません。だからこそどんなに辛くても歩みを止めるわけにはいきません。相澤委員長の貨物労組新聞新年号の年頭所感にもあるように、たしろが居なくなればJR貨物は無いと言っても過言ではありません。

今、改革のたたかいと「たしろかおる応援プロジェクト」は両輪のたたかいです。一方が出来て一方が出来ないということは無いと思います。確かに、賃金闘争や手当闘争と比べるとやりたくない気持ちは分かります。しかし、今が一番大切な時期なのです。辛く苦しい時期を多くの仲間と共に乗り越え、「たしろかおる応援プロジェクト」の貫徹を目指して力一杯、共にたたかっていきましょう!